

角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 に掲げるKPIの達成状況等について

■ 「角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」とは

国の長期ビジョンや総合戦略を勘案しつつ、角田市における人口の現状と将来の展望を提示する人口ビジョンを策定し、これを踏まえて、7か年（平成27年度～令和3年度）の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた地方版の総合戦略である。



国の交付金を受け、市民や高校生へのアンケート調査を実施し、「角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会」において検討を重ね、平成28年1月に策定し、その後、次期長期総合計画と次期総合戦略を一体的に策定するため、令和2年3月に変更（計画期間の2年延長）を行った。

■ 政策目標の設定と検証

「角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、角田市における7年後の基本目標とこれに係る数値目標を設定している。

基本目標① 内発的産業の振興による安定した雇用の創出

数値目標	策定時	目標(令和3年度)
従業者数(人)	14,409(平成26年)	15,267

基本目標② 地域資源を活かした移住・定住の推進

数値目標	策定時	目標(令和3年度)
転入者数(人)	925(平成26年)	1,000

基本目標③ 若い世代が子どもを産み育てやすい環境の整備

数値目標	策定時	目標(令和3年度)
子育て支援の環境や支援に関して満足していると思う市民の割合(%)	15.6(平成25年度) (満足2.1+やや満足13.5)	30.0

基本目標④ 安全・安心で住み続けたいくなる「まちづくり」

数値目標	策定時	目標(令和3年度)
角田市に住み続けたいと思う市民の割合(%)	52.4(平成27年度)	70.0

また、基本目標を達成するために講ずべき施策の基本的方向と具体的な施策を記載し、各施策の効果を客観的に検証できる指標(重要業績評価指標(KPI※1))を設定している。

なお、政策の進捗状況について KPI で検証し、改善する仕組み(PDCA サイクル※2)を確立するとともに、外部有識者会議等を含む検証機関として「角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会」を設置し、基本目標に係る数値目標や具体的な施策に係る KPI の達成度を検証するものとしている。

※1 KPI…Key Performance Indicator の略。
達成すべき成果目標を指す。

※2 PDCA サイクル…Plan(計画)、Do(実施)、Check(評価)、Action(改善)の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと。

■ KPI の達成状況

基本目標に係る数値目標	4 項目
具体的な施策に係る KPI	37 項目

令和元年度の達成状況については、調査時点（令和2年5月末時点）で基本目標に係る数値目標の全4項目中3項目の実績値が把握できていないことから、具体的な施策に係る KPI を主としてまとめている。（令和3年度実施の経済センサス活動調査の結果公表及び今年度実施の市民アンケート集計結果により実績値が確定する。）

また、具体的な施策に係る KPI 全37項目中、事業の完了等により令和3年度の目標値を設定していない9項目については、担当課での現状分析等の評価は行っているものの、今回の達成状況の集計には含めていない。

なお、次頁以降の表における達成状況については、次のとおり整理している。

達成(○)	令和元年度の実績値が令和3年度と同値もしくはこれを上回ったもの
達成見込(↗)	令和元年度の実績値は令和3年度の目標値に達していないが、令和3年度の実績値が目標値に達することが見込まれるもの
要努力(↘)	現時点において、令和3年度の目標値に達することが難しく、今後、特に重点的な取組を行い目標値の達成を目指すもの
算定不能(ー)	現時点において、達成状況を把握することができないもの(条例の制定や計画の策定などを目標にしている指標等)

【具体的な施策に係る KPI の達成状況（全体）】

達成状況	平成 30 年度		令和元年度	
	指標数	割合	指標数	割合
達成	13	39.4%	6	21.4%
達成見込	10	30.3%	6	21.4%
要努力	8	24.2%	13	46.5%
算定不能	2	6.1%	3	10.7%
合計	33	100.0%	28	100.0%

・ 計画期間の2年延長に伴う見直し後の令和3年度の目標値に対する達成状況は、「達成」及び「達成見込」が計12項目で全体の約4割であったが、「要努力」が13項目で約半数が達成困難な状況にある。

・ 「達成」の割合が減少した主な理由は、前年度「達成」としていた指標について、計画期間の2年延長に伴う見直しにより、令和3年度の目標値を設定していない、または、上方修正したためである。

・ 「達成見込」の割合が減少し、「要努力」の割合が増加した主な理由は、イベント集客数や施設利用者数を目標値としている指標について、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、今後の見通しが立たず、達成が難しいと判断した項目が発生したためである。

・ 特に「要努力」とした指標のうち、イベント等に関係するものについては、「新しい生活様式」への対応を考慮しながら、段階的な活動再開が必要となるため、状況を見定めながら、目標達成に向けた取組を検討する必要がある。

【参考】

なお、計画期間の2年延長に伴う見直し前の令和元年度の目標値に対する達成状況は、達成 33.3%、未達成 60.6%、算定不能 6.1%であった。

【具体的な施策に係る KPI の達成状況（基本目標ごと）】

達成状況	基本目標①		基本目標②	
	指標数	割合	指標数	割合
達成	1	14.3%	3	37.5%
達成見込	2	28.5%	2	25.0%
要努力	3	42.9%	3	37.5%
算定不能	1	14.3%	0	0.0%
合計	7	100.0%	8	100.0%

達成状況	基本目標③		基本目標④	
	指標数	割合	指標数	割合
達成	1	16.7%	1	14.2%
達成見込	0	0.0%	2	28.6%
要努力	5	83.3%	2	28.6%
算定不能	0	0.0%	2	28.6%
合計	6	100.0%	7	100.0%

・ 基本目標①については、農業関連の指標に「要努力」が多く、道の駅の開設により市内園芸製品の販売額は大幅に増えたものの、高齢化を主な要因とする担い手の減少が課題である。

・ 基本目標②については、移住・定住の推進に関する指標や道の駅の入込客数は順調な伸びを見せ、「達成」及び「達成見込」の割合は6割を超えているものの、数値目標である転入者数は減少傾向にあることから、施策の見直しを検討する必要がある。

また、令和元年東日本台風による被害や新型コロナウイルス感染症対策の影響により、イベント集客数や施設利用者数が大幅減となったことから、災害復旧及び感染症の拡大防止に努め、集客数等の回復を目指す。

・ 基本目標③については、「要努力」の割合が 8 割を超えており、特に子育て支援に関する指標の目標値の達成は非常に厳しい状況にあるため、今後、益々加速する少子化の影響を考慮しつつ、施策の見直しを検討する必要がある。

・ 基本目標④については、令和元年東日本台風災害の影響により、阿武隈急行線利用者数の減少や幹線市道の改良の遅れなどの影響が見られることから、角田市国土強靱化地域計画を策定することで、必要な事前防災及び減災等に資する施策を総合的かつ計画的に実施し、安全・安心なまちづくりに取り組む。